

部門名はなくなっています。山手地区への展開前の状態から時間がストップしてしまったようです。その後の明大寺地区での人の動きの中で、老朽化して使うのが困難な実験室がそのままとなり、さらに各研究グループの実験室が飛び地状態になってしまい、看板でも表示しにくい状況でした。今回の耐震改修工事で昔のように各研究グループに4~5スパンずつまとめて割り振ることができようになり、現在、ようやく新しい案内サイン看板の制作に入っ

ています。この冊子がお手元に届く頃には、完成予想図のような配置図看板が実験棟に掛かっているはずです。

工事後の実験棟は廊下や室内も明るい色調となり、実験室ドアも桜色に塗装され、以前に比べてずいぶん温かみのある雰囲気となっています。もちろん設備面も新しくなり実験研究が一層進むよう配慮しています。今後も共同研究、共同利用にも盛んに活用されることを期待します。

(鈴木 光一 記)



実験室の配置図看板



完成予想図

TOPICS 分子科学フォーラム



1996年から通算して89回目となる分子科学フォーラムが、6月10日に開催されました。自然科学研究機構長であり、インフレーション宇宙の提唱者でもある佐藤勝彦機構長に、『宇宙の創生とマルチバース』についてお話しいただきました。“マルチバース”とはこの十数年の間に創られた新しい言葉で“多く”を意味するmultiと、“宇宙”を意味するuniverseをたし合わせたものとの説明から始まり、膨張する宇宙、ビッグバン、インフレーション宇宙という宇宙論の流れを分かり易く解説していただきました。そして、仏教の三千大千世界を物理の言葉で表したともいえるマルチバースの超大な時間と空間の世界に、1時間半たっぷりと浸ることができました。定員200名の岡崎コンファレンスセンター大ホールは満席となり、補助席や中会議室も使用して、ほぼ250名に方々に宇宙の壮大なるストーリーをお楽しみいただきました。岡崎コンファレンスセンターの向かい側に位置する岡崎高校からも、普段より多い20名程度の生徒さんが聴講しました。佐藤機構長からは、「量子宇宙論」という未完の理論について、若い世代の人たちにぜひチャレンジして欲しいとのメッセージも送られました。

(寺内 かえで 記)

